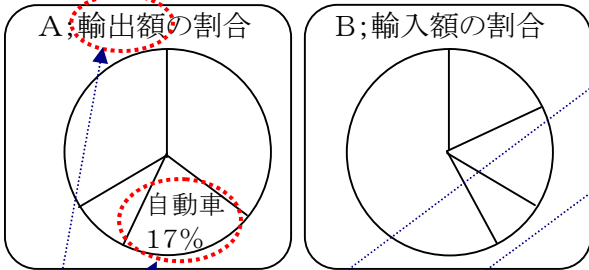


資料よみと



C; 輸出品の相手

自動車	USA; 37%	

D; 輸入品の相手

輸出総額を84兆円とすると、USAへの自動車輸出額は何円か？

複数資料の活用が必要となる場合は、問いとなる文章を単純化させていく。

手順; 1
問題文に登場する要素を取り出させ、それを資料中から見つけてチェック(○囲い)を入れさせる。
*資料 ○

資料; C → 自動車の37%は、USA
自動車 × 0.37 = USA

手順; 2
問題文全体ではなく、文末の問われている情報のみを問題とさせる。
輸出総額を84兆円とすると、USAへの自動車輸出額は何円か？

資料; A → 自動車は、84兆円の17%
84兆 × 0.17

手順; 3
問題文を「Aの○倍は、B」という基本の形に読み替えさせる。この言語化させる活動で数量関係を理解させる。そして、式化へ・・・

$$84兆 \times 0.17 \times 0.37 = USA$$

①

$$84兆 \times 0.17 = USA$$

②

* 右から式を作っていく思考 (①→②)

問題文の最後から考え、処理する。

場面や問題構造が、分かり易く整理された文章題ばかりの教科書の時代には、「分かっていることに青線を、聞かれていることに赤線を引いて・・・」といった指導場面をよく目にしてきた。しかし、このような問題が設定された場合には、それは通用しない。そして、この問われ方や複数資料読み取りの経験不足からか、正答率は低い。特に、割合の要素が含まれると、さらに下がるようだ。それは、何処を見れば良いのか、何を問われているのか等、要素や関係(問題構造)が明確にならないからだろう。そのため、上の例のような手順を試して欲しい。

- ① まず、解決に必要な要素を資料から見つける。
- ② 次に、問いの全文ではなく、最終、問われる内容のみに絞って考える。
- ③ 問われている内容を、割合の場合は「2の3倍は6」という乗法の形を基本として、要素を関係づけた言葉にしてみる。(自動車の0.37倍はUSA)
- ④ 言葉で関係が整理できると、分からない要素を□として、式をつくる。